

D 氏邸訪問記(2014.8.23)

1. 始めに

新築で理想的なオーディオルームを構築された D 氏邸には、引っ越し直後のオーディオシステムの調整はこれからという時期に伺い、響きの良い新オーディオルームで **Jensen Imperial** の大物ぶり垣間見せていただき、5月5日の研究室日誌で報告いたしました。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/?p=2373>

今回は **Jensen Imperial** の鳴らしこみも進んだということで A 氏と一緒に訪問させていただくことになりました。さらに、A 氏と手分けして PC と GPS-777 および USB リバメンテなどを持参して **Jensen Imperial** での PC オーディオを主に聴かせていただきました。

2. 試聴の経過

D 氏邸の目玉は何と言っても同軸 3way の G610A を搭載した **Jensen Imperial** (写真) ですが、他にサブシステムとして **JBL** のベルエアーもあります。今回はメインの **Jensen Imperial** を聴かせていただきました。D 氏は根っからのアナログファンですが、今回は PC オーディオと EMT981 による CD 再生で聴かせていただきました。**Jensen Imperial** を駆動するアンプは WE 120A Type Pre Amp(262B+310A)と RCA M9335 Main Amp (RCA 6L6)×2 台 (写真) です。

註：() 内は使用真空管



まずは、D 氏の PC で You Tube による 50 年代の Jazz (写真) などを聴かせていただきましたが、これが驚いたことに You Tube の音とは思えないほど、実在感がありました。なお、DDC は USB-201、DAC は DAC-1 でこの時点で USB-201 への外部

クロック入力は行っていません。



次に、A氏持参のPCに替え、再生ソフトのHQPlayer Desktop 3により、設定をDoPにしてUSB-201が受けられる96KHz送り出しで、内蔵ドライブからのCD再生、内蔵HDDと外付けHDDからの11.2MHzと5.6MHzのDSD、352.8KHzと192KHzのWAVなど、いろいろなフォーマットのいろいろなジャンルの音楽を聴いていきました。途中、PCからUSB-201への送り出しケーブルをUSB-W4からUSBリベラメンテへ、USB-201へのGPS-777からのクロック入力を行っていましたが、ともかくベースとしてのJensen Imperialのパフォーマンスが高いため、ここをこう替えたら、この悪いところが直ったというようなレベルのことではなく、またフォーマットに関係なく、部屋の響き具合にも助けられて聴いていて心地よく楽しい間に時間が過ぎてしまったという感じです。もちろんUSBリベラメンテやGPS-777の効果は拙宅で確認してきた方向性と同じ傾向です。

次に、EMT981(写真)によるいろいろな音楽ジャンルのCDを聴かせていただきましたが、ここでGPS-777(写真)からクロック入力を行うと、これも拙宅で経験済のようにEMTがよりEMTらしくなったということ以外の表現が見つからないようなことでした。



3. まとめ

近所にお住まいでたびたび経過を聴いておられるM谷氏によれば、この3ヶ月間で随分と変わってきたとのことでした。D氏にその経過をお聞きすると、業務用機器独特の調整しろがいろいろあるようで、以前の共同住宅の狭い部屋から、大きな部屋に

変わったことに対応してそれらを見直したことが大きいということでした。

個人的には、A氏のPCでの11.2MHz,DSD音源の96KHz,PCMへのダウンコンバート再生のマーラーの1番とEMT981でのマーラーの3番のCD再生における緻密で躍動感あふれるオーケストレーションに度肝を抜かれました。いろいろなところで聴いてきた、タンノイ、EV、ヴァイタボックスなどなど、古今の銘機の音を記憶に頼って思い出そうと指を折りながら考えていましたが、これほどの経験はそうはありません。思わず、ジャズファンのD氏にジャズだけ聴くのはもったいないと言ってしまいました。次回は50年代から60年代にかけて黄金時代であったアメリカのオーケストラものやD氏の得意とする50年代のジャズのアナログとCDをじっくり聴かせていただきたいと思います。

以上